

フランス大使講演要旨

駐日フランス大使 Bernard de Montferrand 氏はシンポジウムの開会式に臨席されました。氏の御講演の原稿は東京のフランス大使館の御好意により、この巻にフランス語で掲載させていただきます。これは日本語によるその要旨です。

数学はフランスおよび日本に共通した優れた分野ですので、大使がこの数学のシンポジウムに出席するのは適切なことだと思います。日本はフランスと同様、偉大な数学者を生み出しています。基礎的研究における二国間の協力は豊富で実り多いものです。基礎的研究は技術の進歩の源にあり、数学は知的活動の本質です。

特異点理論は日仏科学協力のシンボルです。特異点理論における日仏間の最初の接触は 1968 年の廣中平祐のフランス IHES への訪問に遡ります。特異点理論における多くの日本人数学者がフランス語を話すのは注目すべき点です。諏訪立雄と Jean-Paul Brasselet を責任者とする、1995 年から 2001 年の CNRS と JSPS 間の特異点における協力事業により、我々二つのグループ間の協力が具体化されました。そしてこれは 2001 年からの CNRS の PICS (科学協力国際プログラム) により引き継がれました。次の二つの特異点日仏シンポジウムががこの事業の結果です：1998 年の札幌、2002 年のマルセイユ。このシンポジウムは三番目のものです。

廣中平祐教授も日仏科学協力のシンボルです。彼の業績はフィールズ賞、1975 年の文化勲章などにより認められています。廣中氏は我々二国間の科学協力の発展に継続的に尽くしておられます。2004 年 1 月、フランス最高の荣誉であるレジオン・ドヌール勲章を受けられたのはこのためです。

日仏間の科学協力の力強さは一目瞭然です。我々は堅実で実りある研究を進展させなければなりません。そして日仏間に存在する潜在能力は我々の科学協力を一層の推進させるでしょう。あなたがたはこのような協力の成功例です。フランスはあなたがたに感謝します。